



農地パトロールを行う神崎会長（右）と大石推進委員

## 集落営農の法人化を学ぶ 府農業会議が農業法人設立講座



熱心に討論する参加者

京都府農業会議は昨年12月15日、「農業法人設立講座（集落営農編）」を亀岡市内で開催し、府内で法人化を検討している14地区の農業者と関係機関の職員など47人が参加した。講義では、兵庫県丹波篠山市農都創造政策官の森本秀樹さんが「集落型法人設立のポイント」について解説。法人化する前に、集落の農地を守る方策を考え、将来に向けた合意形成を図ることの重要性を強調した。その後、参加者が各地域の取り組み状況を報告し、各地区の課題について意見交換。「組織として何に取り組むかを明確にして、地域全体で法人化を進めたい」などと話合った。



地元のこども園による稲刈り体験

在は約20畝を耕作。自然環境に配慮した減農薬農法による「倉垣しあわせ米」などを栽培しています。中小企業セミナーに参加して経営の勉強を重ねながら、農閑期には農業体験を受け入れ、年末には「杵つき餅」の出張実演販売を行うなど、収入を確保する努力を続けています。また、子どもたちに農業に興味を持ってもらうために、地元のこども園や小学校で田植え・稲刈り・稲摺りの体験を行うなど、「地域に愛され、地域の役に立つ法人」として活動しています。（京丹後市農業委員会・青木美恵委員）

## 楽しく「環境にやさしい農業」を推進

京丹後市 楽農くらがき

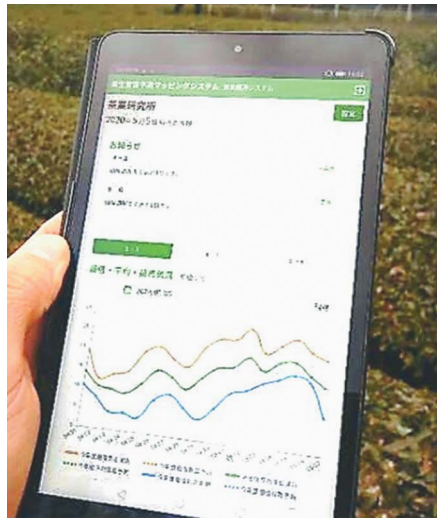
京丹後市大宮町の奥大は、環境にやさしい農業野村で2002年に設立を通じて「持続可能な地」された（楽農くらがき）域づくり」に取り組んで女性委員が「つないで発信」

廃業する農家の農地を引き受けるとともに、地区内の遊休農地を解消するため重機で樹木を撤去するなど、苦勞して水田の再生利用を推進し、現

## 地域の農地を未来へつなぐ

### 亀岡市 農地パトロールを実施

亀岡市農業委員会は、昨年7～8月、委員が市内18地区を分担して農地パトロール（利用状況調査）を行った。現地確認では、傾斜地や狭い農道が多い中山間地域でも、水路管理が大変な農地まで大切に守られ、地域の景観と農業生産が維持されていた。一方で、雑草の繁茂などで「指導が必要な農地」も市全体で106筆（約8畝）見つかったため、農業委員会から計62人に意向確認書や草刈指導等の通知文書を発出。その後、草刈りと保全管理が行われたり、所有者農地の保全に取り組んでいきたい。（亀岡市農業委員会・神崎弥会長）



現場でスマホやタブレットにより「茶生育等予測マッピングシステム」の情報を確認

開発している。このシステムでは、農研機構の50畧メッシュ気温推定プログラムを活用し、気象庁のアメダステータを使って茶園ごとの気温を推定。新芽の生育、害虫クワシロカイガラムシの防除適期、霜害を予測している。現在、他の害虫発生予測機能の追加を検討中で、茶園管理に役立つ機能が充実すると期待されている。

### 茶の「生育等予測マッピングシステム」を開発

茶業研究所では、生産現場の効率化や省力化につながる「茶生育等予測マッピングシステム」を開発している。茶農家の

### 茶業研究所

京都府農林水産技術センターほととニュース

発生リスクなどの予測をスマホやタブレットパソコンで確認できる。

さらに、茶の摘採や、クワシロカイガラムシの防除、霜害回避のための棚被覆など、作業のタイミングをアラートメールで受信できる。茶農家の

「紙の方がメモを取りやすい」「紙資料は見比べやすい」「対面で話すとき、紙資料の方が説明しやすい」という意見も根強い。デジタルとアナログの最適な組み合わせを模索して、手探りの運用を続けている。今後も、「地域農業の発展のための業務改善」を目的に、創意工夫で農業者への「新たな価値」の提供をめざす。（舞鶴市農業委員会）

## 農産物ブランド化を推進

### 京都丹波もん 代表 篠山直也さん

南丹市美山町で年間1万羽の肉用鶏を生産する篠山直也さん（42）。京都府が開発した「京地どり」の生産・加工・販売を中心に取り組み、「匠京地どり」「京美白どり」のブランド化にも力を入れている。岡山県の農業大学を卒業後、美山町の養鶏農家で研修し、23歳で独立。子どもの頃は体が丈夫でなかったが、田舎暮らしで健康になった経験から、医食同源の理念を大切に、完全自家配合で生産する。食の安全に徹底してこだわり、「自分自身が食べても大丈夫なエサを与えている」と胸を張る。南丹市農業委員会が開いた若手農業者交流会を契機に発足した活動グループ「京都丹波も

### 農deきらきら



完全自家配合にこだわり「京地どり」を生産する篠山さん